



レストラン「INVER」と「シシャモの会？」のメンバー



参加者同士のコミュニケーションも深まり、和気藹々の雰囲気の中での夕食。
しかし、食事のメニューは相も変わらずである。

お抱えの歌手なのか店員なのかは定かでないが、店内のスポットライトの当たらない暗いステージで、ロシアの男女がカラオケ歌ってくれた。

カラオケマシンの電気だけが浮かび上がり、歌い手の顔が見えない異様な光景だった。

夕食の締め挨拶を幸子さんをお願いした。

「エージェントから通訳の依頼があったとき、あまりにも大人数だったので一度は断ろうと思った。しかし、後から団長が富田さんと聞いて快諾しました。・・・」 感動した。

10月21日(金)くもり

いよいよ帰国の日である。ユジノの空は今にも泣き出しそうな色をしていた。

8時にホテルを出発する予定であったが、連日連夜のメンバーへの気遣いからか、佐藤専務・関専務の両名が定刻になっても現れなかった。

また、荷物を運ぶ伴走車が故障のため手配できないことになり、急遽、我々のバスの座席スペースを荷物用に確保して積み込んだ。

荷物と人でぎゅうぎゅう詰めになったバスは、定刻を若干遅れてホテルを出発した。もちろん遅れてきた二人が荷物番になったのは言うまでもない。



コルサコフからユジノまでの道路は三車線で、中央が追い越し車線になっている。最高速度は70kmに設定されているようだが、どうもロシアの運転手は先行車を抜きたがるようで、常にバスのエンジンがうなりをあげている。



お約束のトラブルはあったが、9時頃コルサコフのターミナルに到着した。ターミナル前の木々はすっかり秋深い色をしていた。

ターミナルに着いて間もなく、他の乗船客より先に我々団体客の乗船手続きが始まった。

(これより寺澤副会長談)

『毛皮の帽子的国外持ち出しは一人一個だけという話を事前に聞かされていたので、少し心配をしていた。

幸子さんから大丈夫と言われ、デイバックに帽子を詰め込んで手荷物検査に向かった。順番待ちの手前には富田さんが並んでいた。富田さんもバックを背負っていた。なにげに富田さんの荷物検査を見ていると、バックを背負ったまま手荷物だけ検査機械を通して、そのまますんなりパスしてしまった。

「自分も行けるか？」とバックを背負ったまま後に続く。すると、これまたあっさり通ってしまった。

「さすが団長 サハリンに通い初めて15年 コネクションが違う」と感心した。』



出国手続きのため順番に並ぶメンバー。(右端に青いバックを背負った富田団長)

(寺澤副会長談)

『この写真を撮った後、「ロシア出入国カード」をチェックする税関のおばさんにカメラのフラッシュが見つかり、しこたま怒られた。

P R I D Eの格闘家「エメリヤーエンコ・ヒョードル」を彷彿させるおばさんにロシア語で捲し立てられ、何を言われているのかさっぱり判らなかったが、ただ、ただカメラと帽子を取り上げられるのではないかと、内心ビビっていた。自分は「I'm sorry」と声を絞り出すのがやっとだった。本当に怖いおばさんであった・・・。』

出国手続きも無事に終了し、ターミナルからバスに乗りフェリーに向かう。
定刻10時、船はゆっくりとコルサコフの港を出航した。



帰りの船内は乗客で込み合っていた。(日本国籍47名、ロシア国籍41名、その他外国籍2名、合計90名)

その中に、ロシアのかわいい子供達と、引率と思われる大人がいたので話を聞いた。

彼らは、ネベリスク市のアンサンブルのメンバー22人で、稚内国際文化交流協議会に招かれ、4泊5日の日程で公演や慰問活動、市内の中高生との交流などを行う目的で稚内を訪問するのだという。





13時30分、時化模様の中、船は定刻で稚内に到着した。



6月の訪問でもそうであったが、今回もメンバーの日頃の行いのおかげで本当に天候に恵まれた。

サハリンを団体で行動することは、正直、非常に困難だと考えていただけに、無事終了することが出来て本当に良かったと思う。

- ミッション参加者の感想 -

サハリンプロジェクトについて。

萌志会（留萌建設協会二世会）

三協建設(株) 堀松秀樹

「近くて遠い島」は、非常に可能性を秘めた島だと感じました。天然資源はもとより、地元経済の向上においても劇的な発展を迎えることと思います。故に隣人である私達北海道企業は、サハリンプロジェクト・ローカルコンテンツの縛りに屈することなく、確かな「技術力」を武器に今後のビジネスチャンスを掴んで行きたいと考えます。

オホーツク二建会

芙蓉建設(株) 中川 寿一

オホーツク二建会から、中川、鴨下の2名で参加させて頂きました。液化天然ガスプラント建設現場での施工管理は、安全対策や環境対策の側面から見ても日本のそれと大差が無いように感じられたのですが、サハリンの街中の土木工事では、管理基準が日本からみると相当に甘い様な気がしました。(特に安全面)
サハリンは気候・風景が北海道とほとんど変わりがないのに、文化の違いを実感出来て、本当に勉強になりました。
宗建会の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

おわりに

事前訪問を含め、今回のミッションの開催にあたり、ご支援、ご協力をいただいた北海道サハリン事務所、稚内市、一般参加者、CTSD、ワッコル、北海道建青会、稚内建設協会の皆様にお礼と感謝を申し上げます。

今回のミッションを通じて、サハリンの可能性に富んだ現状を垣間見たとき、宗谷とサハリンの繋がりが今後益々発展する事を祈るばかりです。

2005年10月

編集委員一同

事前訪問参加者

富田 伸司

藤田 隆明

三谷 浩明

寺澤 尚哉

林 靖二

齋藤 直哉

ミッション参加者

富田 伸司

三谷 浩明

寺澤 尚哉

齋藤 直哉

佐藤 国房

後藤 浩樹

関 和浩

田中 太一

飯崎 仁一